

vol. 2193

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】横道 信哉 【印刷】佐伯印刷(株) 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に入れて徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 組合員の団結を力とし、「対話」に基づく「組織と運動」の構築を
-2019年新春メッセージ
- 70年の歩みをふり返り、高教組運動の更なる躍進を誓い合おう！
-大分県高等学校教職員組合結成70周年記念レセプション

組合員の団結を力とし、 「対話」に基づく「組織と運動」の構築を

社会の未来に向けて教育の責任を果たしていく

大分県高等学校教職員組合 執行委員長

横道 信哉

あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には、健やかに新年お迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中の大分県高教組の運動推進に対しますご理解とご協力に御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2019年は、結成70年の節目を、組合をあげて祝うことができました。70周年記念を冠した様々なとりくみに多くの組合員の参加を得て、いずれの行事も盛会裡に終えることができました。

また、諸行事の締めとなった祝賀宴には県内外の来賓の御臨席を賜る中、身に余る多くのご祝辞を頂きました。そして、参加者とともに高教組運動の来し方を振り返りながら、苦難を乗り越えながらも発展して来た学校現場と共にある組織の誇りを改めて胸にすることができたと思います。節目を機にさらなる運動の発展を決意したところであります。

さて、高校教育は大きな転換点に立っています。新学習要領、観点別評価の徹底、大学入試改革、学びの基礎診断・大学入学共通テスト等々への対応に加え、18歳成人のためにも「主権者教育」の内実が問われます。インクルーシブな社会に向けて高校の在り方が変わる必要があります。また、昨年の重要課題であった学校の「働き方改革」はいよいよ中教審の結論が示されます。実効性を伴う対策でなければなりません。文科省案がどのようなものであったとしても、私たち自らが学校現場改革の主体であることを自覚しなければ学校は変わりません。この機に職場の議論を踏まえ、労使が共に改革すべき方向をしっかりと見据えた最善策を手になければなりません。

政治の流れを変えなければなりません。改憲発議への緊張状況は続いています。現憲法の下で、「平成」は日本が戦争をしなかった唯一の時代となります。しかしながら恒久平和主義、主権在民、基本的人権の不可侵の憲法の三原則は政治によって揺らいでいます。議会制民主主義も多数による強権政治の下で機能不全の状況を国民の前に晒し続けています。この危機的な状況を変えられるかどうか直面する統一自治体選挙と参議院選挙にかかっています。私たちが推薦し、支持する候補者の勝利に向けたとりくみに全力を挙げましょう。

今年も私たちを取り巻く状況は厳しく教育に関わる課題は多いのですが、解決の方向をしっかりと見据え「大分県高教組は社会の未来に向けて教育の責任を果たしていく」ことを決意とし、年頭のご挨拶といたします。

2019年の初頭にあたり、連帯する組織と議員から多くのメッセージが寄せられました。次ページより掲載しています。

子ども・学校現場の実態をふまえた教育改革を！

日本教職員組合 中央執行委員長 岡島 真砂樹

大分県高等学校教職員組合の皆様、あけましておめでとうございます。

格差社会における子どもの貧困、暴力・虐待、学校におけるいじめ・不登校等、子どもの命や人権が脅かされています。私たちは改めて人権侵害の現実から深く学び、教育のあり方や人権の捉え方を見つめ直すとともに、すべての子どもにゆたかな学びを保障するインクルーシブな学校づくりをすすめていかなければなりません。

学校現場における長時間労働は常態化・深刻化しており、教職員のゆとり・やりがいも奪われています。教職員の勤務環境と子どものゆたかな学びは表裏一体の関係にあります。引き続き協力・協働の職場づくりや広範な社会的対話をすすめていきましょう。

すべての子どもたちに平和で民主的な社会を引き継ぐため、4月の統一地方選挙、7月の参議院選挙にむけ組織の拡大・強化をはかりながら、子ども・学校現場の実態をふまえた教育改革を求め、とりくみを強化していきましょう。

「働くことを軸とする安心社会」の深化に向けて

日本労働組合総連合会・大分県連合会 会長 佐藤 寛人

2019年、新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃からの連合大分運動に対する皆様のご理解とご支援に改めて御礼申し上げます。

連合大分は、今年結成30年の節目を迎えます。私たちは、構成組織、地域協議会との丁寧なコミュニケーションによる情報共有と合意形成に努め、「かみ合ったタテとヨコによる総がかり」の一体感のある運動を推進し、組織力・政策力・発信力強化に全力で取り組んでいく所存です。同時に、将来の私たちを取り巻く環境変化を見据えた新たなビジョンを示し、希望ある未来づくりへの運動を進めてまいります。そのために、2019春季生活闘争では「底上げ・底支え」「格差是正」「すべての労働者の立場に立った働き方」を同時に進めるとともに、「Action36」では、すべての働く者にとっての労使関係の重要性・必要性を強く社会に対して訴えていきます。そして、賃上げをはじめとする労働の質的向上、ワークルールの確立と「法の内容を超える」労働条件の実現などをとおして、ナショナルセンターとしてすべての働く者の悩みを受け止めうる存在となるよう、運動の質を高めていきます。

今年も高教組の皆さんの絶大なるご理解とご支援をお願いして、年頭のご挨拶とします。ともにがんばりましょう。

いよいよ正念場!! 平和憲法を守り抜く

大分県平和運動センター 議長 佐藤 義朗

大分県高等学校教職員組合のみなさん、新年明けましておめでとうございます。

また、平素より大分県平和運動センターの取り組みに対して、横道委員長を先頭に高教組一丸となつてご理解・ご協力をいただいていることに心からお礼申し上げます。

さて、昨年の通常国会は、森友文書改ざん、加計面談記録、イラク派遣の日報、セクハラ問題など次々と続く政権の不祥事が発覚したものの、安倍政権による説明責任や問題解決は不明なままです。そのような中、安倍首相が自民党総裁選に三選し、第4次安倍内閣が誕生したことにより、さらに「憲法改悪」に前のめりです。住民の命と暮らしを守るため、「戦争のできる国づくり」をさせないために、真っ向から安倍一強の政権と対峙し、平和憲法を守り抜かなければなりません。

そのためにも、統一自治体選挙における県センター推薦候補の全員を勝利させ、参議院議員選挙では県センター・各単産推薦候補の勝利にむけ、みなさんと全力で取り組んでいくことをお誓いし、新年のあいさつといたします。

民主主義の後退は選挙によって始まる

社会民主党大分県連合 代表 久原 和弘

大分県高教組の皆さん、そしてご家族の皆様、新年おめでとうございます。

表題は「民主主義の死に方」という著書の中に出てくる言葉です。S.レビッキーとD.ジブラット（共に米ハーバード大教授）の共著である。池上彰さんは「2016年11月、アメリカで、はっきりと独裁的な傾向を持つ男が大統領に選ばれた。今、世界中で民主主義がゆっくりと静かに殺されている。かつて民主主義は革命やクーデターによって死んだ。しかし、現代の民主主義の死は選挙から始まる。民主主義の崩壊を20年以上に渡って研究してきた著者二人が、世界の現状を分析し、将来に向けて打つべき手を提言する。」と紹介し、さらにこう結んでいる。「日本でも『安倍一強』体制の下で、国会の討論が機能せず、官僚は上を見て忖度し、政党は罵り合う。最終的には強行採決で法案が成立していく。日本はどうなるのだろうか」と。私たちは、今年4月の統一自治体選挙、そして夏の参議院選挙での勝利のため全力を挙げようではありませんか、真の民主主義を守るために。

皆さんと手を携えながら、国会の場で頑張りたい

社会民主党 衆議院議員 大分県連合副代表 吉川 元

大分県高教組の組合員、そしてご家族の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

さて、教員の長時間労働が大きな注目を集めています。しかし、来年度から大きく変わる大学入試、そして新学習指導要領に基づく教科や科目の見直し、教職員に一層の過重な労働を強いるのではないかと危惧するところです。教員の長時間労働を是正するには、教職員の絶対数の改善、業務量の削減、そして教員の労働時間に関する法制度の整備をセットで実行に移すことが不可欠です。その実現に向け、皆さんと手を携えながら、国会の場で頑張りたいと思います。

今年は12年に1度、統一自治体選挙と参議院選挙が同一年に実施される、まさに政治決戦の年となります。国民不在・憲法改悪にまっしぐらの安倍政治に終止符を打つことができるよう、選挙戦、闘いぬく決意です。

最後になりますが、組合員の皆さんにとって、本年が実り多き1年になりますことを祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。

「まっとうな民主主義」を取り戻す

立憲民主党 衆議院議員 横光 克彦

大分県高教組の皆様、新年あけましておめでとうございます。

日頃より高教組に結集される皆様方から絶大なご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

衆議院議員に返り咲いて約一年、私の所属する立憲民主党は結党以来「多様性を認め合い、困ったときに寄り添い、お互いさまに支え合う社会」を作り上げることをめざし、何よりも「まっとうな民主主義」を取り戻す事をめざして国会で戦ってまいりました。

昨年の国会は、政府・与党の強引な国会運営が特に目立つものでありました。相変わらず国民の声を無視し続ける安倍政権にしっかりと対峙し、平和と民主教育を守る為に、また高教組の抱える数多くの課題にも引き続きとりくみ、組合員の皆様のお力になれるよう微力を尽くしてまいります。

本年が皆様方にとりましてより良い年となりますようお祈りいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

学校現場の声をしっかり受け止めてがんばります。

参議院議員 神本 美恵子

新年おめでとうございます。

教育は、経済政策でなく文化政策であり社会政策です。今、教育で語られることの多い「人づくり」「人材育成」は、道徳の教科化や小学校からの英語教育などをはじめとして、経済界がもつめる人材育成になっているかのように見えます。

一方で、学校現場は、全国学力テストによる競争の過熱、新学習指導要領の授業時間増などによって、学校の現場は子どもたちと向き合う時間が十分にとれず、8割の教員がストレスを抱えながら過労死ラインまで時間外労働をせざるを得ないなどブラック化しています。

学校現場での教員経験者として、先生方が生き生きと子どもたちと向き合えてこそ子どもたちの笑顔あふれる学びの場ができると確信しています。学校現場の声をしっかり受け止めて、給特法の抜本的見直し、教職員定数改善、35人以下学級実現に向けてがんばります。

今年もどうぞ宜しくお願いします。

民主主義を守り、一人ひとりの人権が大切にされる社会に

参議院議員 那谷屋 正義

高教組の皆さまの日頃からのご支援・ご指導に御礼を申し上げますとともに、新年が皆さまにとって素晴らしい1年になりますよう心からご祈念申し上げます。

昨年、国会では「働き方改革」が大きなテーマとなりました。教職員が長く先取りしていた残業代ゼロ制度を、民間の高収入の一部専門職に拡大し、過労死が増大しかねない制度を成立させました。さらに極めて問題の多い入管法など、重要法案を数の力で強行に成立させました。議会制民主主義の根底を大きく逸脱するもので看過できません。安倍政権の暴走そのものです。

一方、教職員の働き方改革も大きく取り上げられ、昨年12月には中教審「学校における働き方改革特別部会」で答申が取りまとめられ、引き続き議論される予定です。私もこれを多忙化解消に向けての良い機会ととらえ、学校現場の実態に即しながら積極的に議論に参加していく決意です。

この夏の参院選は、安倍政権による民主主義の破壊を止め、一人ひとりの基本的人権が尊重される国を取り戻すために、全国比例で立候補予定の水岡俊一さんの当選を勝ち取らなければなりません。私も全力でとりくんで参ります！

春の県議選 お力をお貸しく下さい

大分県議会議員 尾島 保彦

新年明けましておめでとうございます。旧年中は何かとお世話になりました。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、全国的に地震・豪雨・台風等の大規模災害が頻発し、改めて防災・減災対策の重要性を痛感した1年でした。また、教職員の「働き方改革」が動き始めた1年でもありました。私は引き続き県議会の場で仕事をさせていただきたく、4月に行われる県議会議員選挙に3期目の巣へ唾を決意いたしました。県政課題や複雑困難化する教育課題にとりくみ、ご期待に応えたいと思っています。皆様方には、また多大なご迷惑をお掛けすることになりますが、力強いご支援を心からお願い申し上げます。

おわりに、昨年末結成70周年を迎えられた大分県高教組の更なるご発展と皆様方のご健勝ご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とします。

声なき声を県政に 小さな声を県政に

大分県議会議員 後藤 慎太郎

皆様、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

さて今年は一統地方選の年であり、夏には参議院選挙も控えています。私自身も二期目に挑戦します。

今春の選挙が議員になっての初めての審判となるわけですが、「声なき声を県政に 小さな声を県政に」ひたすらその思いだけで、議員活動を日々精進してきたつもりです。しかし、まだ満足な回答ができていない要望もあり、志も道半ばであります。私が理想とする社会を一言で表すなら、それは「寛容な社会」です。日本も大分県も持続可能な社会を創り求めるのなら、寛容さがまだまだ足りないと感じます。その人がその人らしく生きていける社会は、いうまでもなく、きっとみんなにとって良い社会になるでしょう。

私は大分県を「世界一暮らしやすい都市」にしたいと考えています。そのためには、多様性を認め合うことができる寛容な社会を創ることが必要です。みなさまのご支援をどうかよろしくお願ひします。

地域の活性化、発展のために

中津市議会議員 今井 義人

明けましておめでとうございます。高教組組合員の皆様には健やかなお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今国政では従来とは変わって、細部を詰めずに大枠を固めて内部を不透明にし、後から政令等で補足する方法で、野党の質問に的確に答弁しない議会が運営されています。こんな事で大丈夫なんでしょうか。教員の働き方改革を巡り、文科省は時間外勤務の上限の指針案を中教審の特別部会に提示しましたが、この案も部活動における外部指導員や事務専門員の配置等人員に予算を伴うもので、自治体の動きが気になります。同じように改正水道法にしても国民の生命を守る国が民間に運営を任せる施策や、入管難民法にしても、従来の審議とはかけ離れた状況にあり、これも安倍一強による弊害と言わざるを得ません。この状況を来る7月の参議院選挙では決して許してはならないと強く思います。ともにがんばりましょう。

地域の実情に応じたきめ細かい貧困対策にとりくみます

大分市議会議員 高野 博幸

新年明けましておめでとうございます。

平素から、あたたかいご指導・ご鞭撻いただいておりますことに、感謝とお礼を申し上げます。本年も新たな気持ちで皆様のお役に立てるようにがんばってまいりますので、よろしくお祈りします。

さて、子どもの貧困率が悪化する中、政府は2014年8月、「子供の貧困対策に関する大綱」をまとめましたが、大綱には貧困削減の数値目標がなく、実行性が担保されていません。一方で国の動きに先駆けて、貧困世帯の子どもを対象にNPOや学生団体と連携して学習支援を行う自治体が増えており、高校進学で一定の成果を上げています。ひとり親家庭の就労支援強化や給付型奨学金の創設の動きも見られます。就学援助制度の充実や地域の実情に応じたきめ細かい貧困対策にとりくんでまいります。

結びに今年1年が皆様にとって、よい年になりますように祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

高教組運動と一体的なとりくみを

大分県高等学校退職教職員協議会 会長 藤嶋 弘史

新年明けましておめでとうございます。

高教組の組合員皆様には、健やかに新年をお迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、これまで高退教のとりくみにご支援とご協力を戴きまして、心より感謝申し上げます。

昨年7月の総会で、高退協の旗を新調したことをご披露しました。高退協の活動するあらゆる場面でこの旗を掲げ、この旗のもとに多くの仲間が結集し、連帯の絆が強まればと思っています。また、7月に行われる参議院選挙では、高教組の支援する「みずおか俊一」(日政連)の必勝を期して、安倍政権の目論みを打ち砕かなければなりません。高退協は、高教組の運動と一体的なとりくみをすることで、退職後の生活控除と豊かな安定を求めて参りたいと思っています。

終わりになりますが、高教組の皆様、ますますのご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

頑なに憲法といのちをまもる!

あけましておめでとうございます。

旧年中に組合員の皆さんからいただいたご厚情に熱く感謝申し上げます。

昨年、結成70周年を迎えた私たちは「教え子を再び戦場に送るな!」の不滅のスローガンのもと、頑なに憲法といのちを守るとりくみに邁進してまいりました。

皆様の今年一年のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

高教組本部一同

執行委員長	横道 信哉	執行委員	武藤 裕一
副執行委員長	長井 剛	執行委員	茨木 里香
副執行委員長	山崎 兼雄	書記	葛城美華子
書記長	利光 祐二	書記	田邊智恵美
書記次長	後藤 昌幸	書記	野村 宏美
執行委員	窪田 一真	特別執行委員	則松 佳子
執行委員	牧 貴史	特別執行委員	尾島 保彦

70年の歩みをふり返し、高教組運動の更なる躍進を誓い合おう！
大分県高等学校教職員組合
結成70周年記念レセプション

と き：2018年12月15日(土) ところ：レンブラントホテル大分

大分県高等学校教職員組合結成70周年記念レセプションは、則松佳子日教組中央執行副委員長、広瀬勝貞大分県知事、工藤利明大分県教育委員会教育長をはじめとする県内外からのご来賓に加え、大分高教組の支部・単組・専門部ならびに各分会から多くの方々の出席の下、盛大に開催されました。

遡ることちょうど70年前、1948年12月15日に結成された大分県高等学校教職員組合。その70年のあゆみを写真で振り返ったのち、山崎兼雄副委員長の開会あいさつからレセプションは始まりました。

冒頭、主催者を代表して挨拶に立った横道信哉高教組執行委員長は、これまでの70年のあゆみを振り返るとともに、この70周年という節目を機に、更なる運動の発展を決意を述べました。

続いて、来賓を代表して、則松佳子日教組中央執行副委員長、広瀬勝貞大分県知事、工藤利明大分県教育委員会教育長、佐藤寛人連合大分会長、佐藤義朗大分県平和運動センター議長から祝辞をいただいた後、内田淳一高教組OB会長の乾杯の発声で祝宴がはじまりました。

会には、県内外からの来賓に加え、高教組の支部・単組・専門部ならびに各分会から、そして歴代執行委員の方々にも出席ただいており、久しぶりに顔を会わせた仲間と近況を報告しあうとともに、思い出話に花が咲いていました。会の途中、藤元正宮崎高教組委員長と組織内県議の尾島保彦県議からお祝いのメッセージもいただき、会は大いに盛り上がりました。

最後に、参加者全員で、国民歌「緑の山河」を斉唱した後、横道委員長の開会あいさつ・団結ガンバロウで会を締めくくりました。

70周年という大きな節目にあたって開催した今回のレセプションでしたが、この会を通じて私たちは、多くの先達が乗り越えてきた様々な困難に触れることができ、この歴史そのものが私たちにとって大きな財産であることを改めて確認することができました。様々に厳しい情勢はありますが、今後とも私たちは、平和教育・民主教育の確立、教育諸課題の解決、教職員の勤務労働条件の改善にむけて更にとりくんでいかなければなりません。今後とも高教組運動への熱心なとりくみをお願いします。



横道執行委員長 内田淳一 OB 会長

◎ご挨拶をいただいた方々

則松佳子日教組副委員長 広瀬勝貞大分県知事 工藤利明大分県教育長 佐藤寛人連合大分会長 佐藤義朗県平和運動センター課長

